

後生掛温泉から焼山・玉川温泉往復

1992.4.7.(火) 小雪霧

馬場修爾

雪とがスで岩手山スキーツアーは、無理なので、焼走りから車で八幡平大深温泉に移動し、大沼荘に宿をとる。

温泉に入り、昨夜眠れなかつて布団の中で休養する。雪とがスのため登山は、無理だが、明日のため途中まで行くことにして出発する。

後生掛温泉まで道路を走く。八幡平アスピーテラインは、除雪されず通行止めだ。後生掛温泉の建物のドアを開けて登山口でシールを着ける。始め少し急斜面を登りシラビンの林の平原を地図を見ながら西に進む。雪でトレスもなく、標式や赤帯なども全く無いがスで視界も悪く不安になる。1000M位登行した場所で引き返すことに、シールを外すし滑りだす。斜度は緩いが新雪でよく滑る。登山口に着き明日登るために駐車場を借りることにして宿に帰り休養する。

コース・タイム

登山口 12:00

登行最終地点 14:00

" 14:30

4.8. (水)

快晴

朝起きると快晴で、国見台の山頂が真白に雪をかぶってはっきり見えた。後生掛温泉まで車で行き、昨日のコースを通り国見台を目指す。途中古い標式板が三枚だけ残っている。新雪の下にトレスも人々現れている。最後の急斜面をキックタンで登り頂上に着く。梅の森のなだらかな尾根が見えられた。シールを着けた蠣毛せん峰に降り、梅の森に登行する。快晴で、三百六十度の展望が見事だ。八幡平の上にひときわ高く、一昨日途中まで登った岩手山がひときわ高く美しく聳えている。焼山の広い尾根も目前だ。鬼ヶ城、山ノ谷に白い噴煙も眼前だ。ここからいくつかの尾根の登下降を繰り

返して焼山に急ぐ、頂上が何處にかはっきりしないところから広い尾根だ。
頂上らしい丸太の運んでいる处に着く。ここで休憩。因りの景色を楽しむ。

西の方に叫沢と冷水沢をはさんで、玉川温泉の建物、国道341号線の道路
がはるか下に見えている。シールを外すし始め無立本の急斜面を滑り出す。
気分爽快だ。やがてシラビソの林から白樺の林の混合林になり見事なブナの
林に滑りこむ。斜度も緩くなり思へり湯ノ湯アリという間に844m地点に着いた。
真下に玉川温泉の建物が見える。ここで昼食をとり休憩する。谷を少し降れば
すぐたがここから返ることにする。滑ったコースを見事なブナの林を見ながら焼
岳に登り返す。シールを着けたまま国見台まで登下降する。始めの急斜面は快
調に滑れたが登山口近くの斜面は滑らずストックで推進滑降して登山口に着く。
天候に恵まれ念願のスキーワークが終り、本年度のワーカーのなかでも思ふや多い
月になつた。また誰れも合わず大自然をひとりじめれば満足感も漂つた。これが
からスキーワークは止められない。

コース・タイム

登山口 8:00	—	国見台 9:00	—	梅森 10:00
焼山 11:00	—	玉川温泉 874m 11:30~12:00	—	焼山 13:00
国見台 14:00	—	登山口 14:30		

ルート図

